

薬の伝言板 ～てんかん～



No.345 2026年8月
丸子中央病院 薬局

てんかんってどんな病気？

てんかんは、脳が一時的な興奮を短時間で何度も繰り返すことで発作が起きる病気です。てんかんのある方は日本全体で60万～100万人とされ、子供から高齢者まで幅広い年齢層で発症します。

てんかんの原因は？

ヒトの脳は興奮と抑制のバランスを保つことで正常に機能しています。ですが、このバランスが崩れて、興奮が強く働くことで様々な症状が出ると言われています。

てんかんの原因には、生まれつきの体質や遺伝的な要因のほか、脳卒中、頭部の外傷、脳腫瘍、ウイルスや細菌による感染症などによる脳の障害が関係する場合があります。一方で、詳しく検査しても原因がはっきりしないことも少なくありません。



どんな症状があるの？

みなさんはてんかんと聞くと、がくがくと痙攣を起こし、身体を硬直させるような症状を思い浮かべるかもしれませんが、実は、症状はこれだけにとどまらず、数秒間ぼんやりする、手足がピリピリする、口をくちくちやる、吐き気や動悸(心臓がバクバクする)などの症状を示す方が多いです。また、症状が起きている時間は数秒から数分ですが、5分以上症状が続くような場合は「てんかん重積状態」という、緊急治療が必要となるような危険な状態になる場合もあります。



薬物療法

分類	主な薬剤	主な役割
神経の興奮を抑える薬	フェニトイン カルバマゼピン ラモトリギン ゾニサミド エトスクシミド トピラマート	脳の過剰な興奮を直接抑えたり、興奮に関与している物質の働きを妨げることで発作を抑えます。
神経の興奮を抑える作用を強める薬	バルプロ酸 ベンゾジアゼピン系の薬 →ジアゼパム、ニトラゼパムなど レベチラセタム	脳の過剰な興奮を抑えようとする作用をさらに強めてくれます。

注意すること

①てんかんの薬は、自己判断で中止すると発作が再発するリスクがあるため、必ず医師・薬剤師の指示に従って服用していただく必要があります。

②眠気やふらつきなどの副作用がみられることもあるため、自動車の運転や高所での作業は控えましょう。

③特にラモトリギンという薬は、決められた用量を超えて服用してしまうと、重篤な皮膚障害が起こることが報告されています。服用する際は必ず用法・用量をしっかりと守っていただく必要があります。皮膚障害の初期症状として、発疹や発熱(38℃以上)、唇のただれなどがあるため、このような症状がみられた場合はすぐに受診するようにしましょう。

てんかんは治療が遅れると、記憶障害やうつ病などの後遺症が残ることがあるため、少しでもてんかんを疑う症状がある場合は早めに医療機関へ受診しましょう



文責 薬局 早川
実習生 橋本